

第15回新城市若者議会

令和5年3月23日（木）午後7時から午後8時30分
新城市議会 議場

開 会 午後7時

1. 若者議会議長あいさつ

○瀬野和奏議長 若者議会議長の瀬野です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。何度も議論を重ね、担当課との意見交換を行い、8月の第6回の若者議会では、政策の中間報告を行いました。そして、令和5年度若者議会予算事業計画を策定し、11月に市長へ答申しました。

本日は、11月に行った市長答申以降、3つの事業についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。また、報告後に時間をいただき委員から今期1年間の活動を振り返らせていただきたいと思います。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

2. 事業報告

○瀬野和奏議長 初めに、交流委員会による「ヤングコネクト事業」です。お願いします。

発表者は、森田 幸輝（もりた こうき）委員、今泉 翔帆（いまいずみ しほ）委員です。よろしくお願いします。

○今泉翔帆委員 私たち交流委員会は、若者を中心とした地域での日常的な交流の活性化を目的に、若者の交流が促進される情報を掲載した若者向け情報誌「ヤングほのか」の作成を答申し、その後も事業の詳細について検討を行ってきました。

検討内容としては、ヤングほのかにおける各コンテンツについての深掘りを行いました。まずは、挨拶啓発についてです。挨拶は交流する上での第一歩だと考えているため、気軽に挨拶がしたくなるような話題を取り扱っていきます。

次に、若者議会情報です。その年度の若者

議会で作るうえで何が論点になっているかを掘り下げて紹介することで、若者議会が普段具体的には何を考えているかを知ってもらいたいと考えています。

次に、防災情報です。内容が堅くなりやすい防災情報は若者が興味を持ちやすいテーマに絞って掲載することで、防災意識を持つことへのハードルを下げたいと考えています。

次に地域のイベント情報です。ここでは、イベント主催者にインタビューを行い、イベントを開催した理由やどのように企画したのか、開催して良かったことなどをヤングほのかに掲載することによって、市内の若者に自主的なイベント開催を催促していきたいと考えています。

次に、新城ローカルニュースです。ここでは、若者が実際に新城で体験したことを記事にすることで、若者をはじめとした市民の活動を催促していきたいです。

次に募集コーナーです。ここでは若者の興味を引く内容を掲載し、楽しくヤングほのかを読んでもらうことで継続して拝見してもらう意図があります。

そして各学校の情報ページも掲載したいと考えています。新城市内の6つの中学校と有教館高校の基本情報や特色ある行事の紹介や生徒達が活動している写真などを掲載します。この紙面は、学生同士の交流の場が近年減少しているという課題から着想しました。これらの各学校の情報を掲載し、若者に読んでもらうことで、同じ地域に住む同年代の若者に興味を持ち、お互いを理解するきっかけとなることや、掲載内容が会話の種となり、交流が生まれることを目的としています。また異なる世代の人に現在の中高生のリアルや生の声を知ってもらうことで昔の自分たちと比較したりと、若者への理解がより深まることも目的としています。

そして共助のページ。日常で助け合いが必要な場面や災害の備えなどで多くの若者が迷

う場面を「あなたならどうする」という視点で発信していこうと考えています。ここでは若者に共助などの堅苦しい話題について、面白く読みながら考えてもらい共助への意識の向上や行動に繋げてもらうことを目的としています。

最後に国際理解のページです。外国人の方との接し方のコツや海外の衣食住の文化、新城市に住む外国人の方にアンケートをとって聞いた生の声などを掲載します。

主に記事は居住者の多いブラジルの方やベトナムの方に焦点を当てたものにします。このコンテンツは新城市の日本人の方に向けて書くもので、外国人の方とどう接していけばいいのかというのを示すことで新城市に住む日本人と外国人の間の壁を無くし交流のきっかけの手助けにしていきたいです。

○森田幸輝委員 私たち交流委員会は、たくさんの人に呼びかけるのではなく、交流意識のある人に向けて呼びかけることで、交流意識のある人が身近な友人や学校、職場の人などを巻き込みながら、1人でないと思ってもらいたい、行動に繋げていってほしいと思っています。そして若者の交流意識を持つ人が多くなっていき、新城市が今よりもっと世代間交流や幅広い年代の人との交流が盛り上がり、どんなときでも互いを支え合って住み続けられるまちにしたいと考えています。

また、若者に向けた活動によって、新城市の若者たちが自分たちのまちについてよく知り、若者の手で新城市を盛り上げ、作り上げていけることの出来るまちにもしていきたいと考えています。

交流と若者の2点から、この新城市をより絆の厚く、盛り上がって活気のあるまちにし、市内外どちらからも魅力のあるまちにしていきたいと思っています。

以上で交流委員会の発表を終わります。

ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
自席にお戻りください。

次に、教育・子育て委員会による「目指せwell-being!プレコンで明るい未来を作ろう」事業です。お願いします。

発表者は、加藤 公香（かとう きみか）委員、菅沼 大輝（すがぬま ひろき）委員です。よろしくをお願いします。

○加藤公香委員 これから教育・子育て委員会「目指せwell-being!プレコンで明るい未来を作ろう事業」について発表を行います。よろしくをお願いします。

この事業は、将来の自分自身の幸せをテーマとして、新城市で安心して子育てができることを目的としています。しかし、私たち若者は子どもを産む・育てるための知識や経験がなく、そこに至るまでの性教育も不足していると感じております。そこで私たちは性教育を学べる機会を作るために2つの政策案を考えました。1つはお出かけ講座の普及、もう1つはイベントの実施です。

お出かけ講座では、既存の「いのちの授業」に加え、新設予定の「プレコンセプションケア」も取り上げます。いのちの授業では、各年代に合わせた内容で命の大切さについて学ぶことができ、プレコンセプションケアでは、女性の生理や出産、妊娠を個人やパートナー同士が考えながら自分たちの生活や健康に向き合っていくことができます。

もう1つの政策であるイベントでは「プレコンセプションケア」について行います。1つ目のお出かけ講座を普及する事業では、開催依頼がない限り広めることが出来ませんが、イベントを主体的に開催することで、よりプレコンセプションケアについて学べる人が増えると考えます。

私たちは答申後、主にお出かけ講座やイベントで使用するスライドの改善と「プレコンセプションケア」イベントについての話し合い

を行いました。

答申前に、しんしろ助産所の方をお招きし、実際に2つのお出かけ講座を行ってもらったため、その際に撮影した動画とスライドを見返しながら気になる点をあげていきました。付け足すべき箇所、あまり必要のない箇所をあげ、話し合い、お出かけ講座を聞く人達がより興味を持ち、親身になって聞いてくれるようにより良いスライドへ改善していきました。実際にお出かけ講座を拝見することで、どのスライドの時に見にくいかなどが実感でき、とても良いものにできたと感じています。

○菅沼大輝委員 「プレコンセプションケア」イベントについては、イベント全体の流れと、それぞれのセクションで活用できるような具体的な案について議論してきました。イベントでは、プレコンセプションケアの講座の中で、グループに分かれて、妊婦体験や意見交換などを行うワークを含めることを予定しています。そのため、イベントの冒頭にはグループごとで自己紹介・アイスブレイクを行います。講座内での意見交換などがスムーズに進むように、この自己紹介・アイスブレイクの時間が大切だと考えています。

具体的な案としては、アイスブレイクを兼ねた自己紹介として、前の人自己紹介の終わりの文字から自分の自己紹介を行う「しりとり自己紹介」を行う案のほか、簡単な自己紹介の後に赤ちゃん連れの親の荷物当てクイズと妊婦体験を行う案など、複数回イベントを行う際に内容を変えられるよう様々な案を準備しました。講座内でのワークについては、元々プレコンセプションケアのスライドの中で「いつでも Condom をスマートに使える人、どう感じる？」という問いかけがありますが、このようなプレコンセプションケアを学ぶ上で避けては通れないセンシティブなテーマについて少しでも話しやすい状況を作るため、「父親」「母親」「姉」「弟」などの配役をした上で進行することを考えています。

令和5年度、このプレコンセプションケアイベントを広報したり、お出かけ講座を普及したりするにあたって、チラシやリーフレットなどを作成する予定であるため、そのデザイン案についてもあわせて考えてきました。

私達はこの新城市に在住する方々に、今以上に幸せに子育てをしてほしいと考えています。子育てされる側の小さい子はもちろん、育てている側の親にも、ぜひ、「子育て楽しい！」と感じてほしいです。また親になる1つ前のステップにいる16歳から25歳あたりの方々には自分自身が親となる可能性があるということを感じてほしいと考えています。性に関する話を話すというのは、ためらいがあったり、恥ずかしかったりとなかなか会話の中で取り上げられませんが、少しでも困っていたら誰かに相談できる、相談されたら一緒に考えられる、新城市にもそういった相談事を専門に扱っている方がいるというのを知っているなど、困っていたら誰かに助けてもらえる、誰かを助けることができる、もっと幸せに子育てが出来るように、今以上にお互いがお互いを助け合えるような新城市になってほしいと思っています。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
自席にお戻りください。

次に、観光委員会による「家族がつなぐ新城思い出事業」です。発表者は、市川 渚（いちかわ なぎさ）委員、川合 春花（かわい はるか）委員です。よろしくお願ひします。

○市川渚委員 観光委員会「家族がつなぐ新城思い出事業」の発表を行います。よろしくお願ひします。

私たち観光委員会は、新城市の魅力を多くの方々に知ってもらえるよう、1年間政策を検討してきました。「世代を超えて何度も訪れたくなるまち」をテーマに、子ども連れ家族

を対象として、様々な観光地を訪れていただけるよう考えてきました。

11月の答申では、愛知県と浜松市に住む小学校低学年くらいの子どもの持つ親をターゲットとしてYouTubeの動画広告を実施すること、また、広告用の動画として、家族をテーマとした感動するストーリー仕立て、新城市の観光地を紹介する動画を作成することを提案させていただきました。

答申後はさらに具体的な内容を詰めてきましたが、主に2つのことを考えてきました。1つめは、YouTube広告のリンク先についてです。YouTube広告は、動画を流すだけでなく、別のサイトなどに誘導できるようリンクを設定することができます。今回は、リンクを押してくれた方々がそれぞれの目的や好みなどに合ったページを選択してもらうことで、実際に「来る」というアクションにつなげたいと考え、新城市の観光に関する複数のサイトを紹介しているページをリンク先にするのが良いのではないかと話になりました。サイト以外に、自分たちが若者視点でオススメする場所も知ってほしいという思いから、若者議会連盟が運営している「しんしろイイトコ」というInstagramのアカウントをそのうちの1つとして紹介したいと考えています。

このアカウントをリンク先の1つとするのにあたり、Instagramの投稿内容を煮詰めてきました。具体的にどこを紹介したいかを話し合い、観光地の説明を作ったり、1DAYルートを新城地区、鳳来地区、作手地区に分けて作ったりして、興味を持ってくださった方に「行きたい！」と思ってもらえるような内容にしました。また、投稿はメンバーで分担して作成するため、統一感がなくならないよう細かくフォーマットを決めた上で投稿しています。

○川合春花委員 2つめに、実際にYouTube広告で流す動画の構成を起・承・転・

結で考えてきました。最初の「起」の部分で、主人公が子どものときに家族と撮った写真を眺めるシーンから始まり、今度は大人になった主人公が自分の子どもと一緒に新城を旅するというストーリーです。とくに今回はスキップ可能なインストリーム広告という種類の広告を予定しているため、いかに最初の5秒でスキップされないかが重要となってきます。2月に行われた市議会議員の方との意見交換の場でも「スキップされないようにする工夫が必要ではないか」というお声を頂き、その後、冒頭部分に関してはとくに入念に話し合い、実際に自分たちでデモ動画も撮りながら検討をしてきました。

以上、答申後の活動内容を報告させていただきましたが、私たちは観光委員会として1年間活動してきて、新城市には今まで自分が知らなかった観光名所がこんなにも沢山あるということを知りました。あまり知られていない観光名所も市内外のいろんな方に広まってほしいと思います。YouTube広告はターゲットの年齢等を設定して広告することができるため、今まで届きにくかった層にも届けることができ、より幅広い年代の人に新城市の観光を認知してもらうことができます。新城市では今までに実例のない宣伝方法なので、今回のYouTube広告の結果を元に、ぜひ今後の市のPR手段の1つとして検討していただきたいです。よろしくお祈いします。

以上です。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
自席にお戻りください。

3. 1年を振り返って

○瀬野和奏議長 続いて1年の振り返りをを行います。各委員順番をお願いします。

初めに、加藤 公香（かとう きみか）委員をお願いします。

○加藤公香委員 教育・子育て委員会の加藤公香です。

私は第8期若者議会の委員として参加させていただき、新城市について自信を持って伝えることができるようになったと思っております。

4年前、海外留学をした際に、他の国の子どもたちの地元について語る熱量に圧倒されました。一方、私は新城市について話すための情報が少なく、自信がなかったため、物や観光資源が少ないと伝えてしまいました。しかし、新城市を見つめ直してみると、地元だからこそ、すでに溢れている大切な資源が見えていなかったことに気づかされました。

そして、今年度若者議会に参加して、資源というものは、物や観光場所などだけではなく、人も含まれていることを思い出させてくれました。私たち教育・子育て委員会が考えた「目指せwell-being!プレコンで明るい未来を作ろう事業」は、性教育という少し触れづらい内容ではありますが、人とという大切な資源を守るための一つの手段であります。今後、性教育を新城市の若者だけではなく、いろんな年齢層の方にもその必要性に気づいていただき、理解していただけるように私もさらに努めていきたいと思っております。

ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に市川 渚（いちかわ なぎさ）委員お願いします。

○市川渚委員 観光委員会の市川渚です。よろしくお願いたします。

若者議会に参加させていただき、この1年間活動する中でコミュニケーションの幅が広がり、自分自身の成長ができたと思っております。同時に、新城市の知らなかったことを新しく知る機会もでき、より魅力を深く感

じることができました。普段は関わることはなかった高校生の子たち、年上の方たちと関わり、貴重な経験ができたと思っております。人と人が出会い、かかわり合うことの大切さ、人それぞれの考えがある中で、意見を尊重し合い、話し合いをし合えるという若者議会のいい部分の一つを強く実感しました。

若者議会で政策を検討していく中で、これまで考えつかなかった様々な観点から新城市について掘り下げることができ、生まれ育った新城市をより知っていききたい、伝えていききたいと思うようになりました。また、課題に向き合って考えていくことが新城市について自分が知っているつもりでも知らないことが多くあったので、新城市についてさらに知る必要があると思われました。

この1年、若者議会に若者議会議員として携わることができ、本当によかったです。多くの出会い、環境に感謝しております。この経験を糧に新城市の魅力をより良いものとし、世代を超えて伝えていけたらいいと思っております。

1年間ありがとうございました。

以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に丸山 綾加（まるやま あやか）委員お願いします。

○丸山綾加委員 教育・子育て委員会の丸山綾加です。

約1年前、この議場で所信表明をしたことを私は今でも鮮明に覚えています。その後、教育・子育て委員会に所属し、この新城市でより快適に、幸せに子育てできるようにするために何をすべきかを考えました。初めは、「まず子育てって何をやるの?」「子どもって、まずどこまでが子どもなの?」など、疑問に思ったことを解決していきました。

また、ある程度政策案の形と方向性が決まった際に、私たちが目指す新城市と離れてしまっていることに気がつき振り出しに戻ることもありました。ですが、教育・子育て委員会の皆さんや新城助産所の方と協力しながら、今、政策案が完成しました。

この1年間は本当に楽しくやりがいを感じるような密度の高い1年間でした。1年間、本当にありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。次に豊田 凜利子（とよだ りりこ）委員をお願いします。

○豊田凜利子委員 観光委員会の豊田凜利子です。

若者議会に参加して、早くも1年が経ちました。緊張してしまい、全く意見が言えず落ち込んだ時もありましたが、知らなかったことを知ったり、委員会の方々と政策を考えて笑ったりして、とても充実した時間を過ごすことができました。また、たくさんのことを学びました。その中でも、特に学べてよかったと思うのは、話し合いの楽しさです。参加したばかりの頃は、なかなか発言ができず、相づちを打つだけで精一杯な時もありました。しかし、堂々と自分の意見を言っている他のメンバーの様子を見て、私もあんなふうになりたいと思い、小さなことでも発言するようになりました。共感されたり、質問やアドバイスをされたりすると、私も話し合いに入っているということを実感でき、楽しいと思えるようになりました。若者議会に参加する前は、話し合いは堅苦しいという印象があり、楽しいものというイメージはありませんでしたが、若者議会を通して、話し合いの楽しさを知ることができてよかったです。

若者委員会に参加してから、新城市は想像以上に魅力的なまちだということにも気づきました。自然が豊かなところが魅力という抽

象的なイメージがあった新城市ですが、実際に観光地を訪れてみると、一言では言い表せないほど綺麗で、開放的な場所がたくさんあり、もっとたくさんの人に訪れてもらいたいと思いました。私たち観光委員会で考えた政策で、観光客がもっと増えるといいなと思います。

若者議会に参加して本当によかったです。1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。次に川合 春花（かわい はるか）委員をお願いします。

○川合春花委員 川合春花です。

私が若者議会に参加して、強く感じたことは3つあります。

1つ目は、新城市のことをもっと良くすることができたことです。観光委員会の活動の中で、みんなで新城市の様々な観光地を訪れる機会がありました。阿寺の七滝や宇連ダムなど、私自身行ったことのなかったところに行きました。実際に行ってみると、新城市にこんなところがあったんだという新発見が多くありました。ここで新たに発見した新城市の魅力を観光委員会で生かせるように頑張りました。

2つ目は、自分の意見をしっかりと伝えることです。私は人見知りでなかなか初対面の方と話し合うことが難しかったのですが、委員会を重ねるうちに自分の意見をみんなに伝えることができるようになりました。緊張することも多かったけれど、これも社会に出るための最初のテストのようなものだと思います。ベストを尽くせたと思います。自分の成長を感じることができた、嬉しい瞬間も多かったです。

3つ目は、委員会のみならず協力しながら政策を考えることができたことです。実際に政策を考えるとなると、そう甘くはなく、現

実的に考えなければならないことが多々ありました。その中でも、みんなでこの1年間政策を練ってきました。最終的にはみんなの納得のいくものが考えることができ、とてもよかったです。

若者議会という貴重な体験をすることができ、うれしく思います。また、この経験をこれからの進路に活かしていきたいと思います。

ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に丸山 泰平（まるやま たいへい）委員
お願いします。

○丸山泰平委員 教育・子育て委員会の丸山
泰平です。

私が若者議会に参加した経緯は、高校の担任の先生が参加することを勧めてくださったことがきっかけでした。すべての若者が若者議会に参加する権利があり、少しでも動かなければ、地域は発展していかない。まして、将来新城市で働くことを目指している者が若者議会に参加しなければ、未来の新城市の発展に貢献することができないのではないかと思ひ、若者議会に参加することを決意しました。

教育・子育て委員会に参加した当初は、政策を模索していく中で、自分はなかなか発言をすることができませんでした。委員会が進むにつれ、議論の流れを少しずつ正確に把握できるようになり、自分が経験したこと、周囲の人から聞いた話に基づき、発言ができるようになりました。それでも自分はまだ役に立てていないと思ひ、メンターの方にアドバイスをいただきました。「議論が行われているときは、脳をメモすること、聞くこと、考えることの3つに分担したほうがいい。」とお聞きしました。以前の私は1つのことを1つずつ別々で行動していたことで、混乱してしまっていると気づき、より政策を考える上

で効果的な発言ができるようになっていきました。今となつては、当初に抱いていた不安な思いを払拭され、もっと若者議会で議論し合いたいと思うほど若者議会という場に愛着がわくようになりました。今後は若者議会委員という立場でなくとも、一新城市民としてもっと新城市について学び、少しでも新城市に貢献できるボランティア活動や、市民まちづくり集会といった活動に参加していきたいです。

最後に、若者議会に関わるすべての方にお礼を申し上げます。1年間ありがとうございました。

以上で終わります。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に柏木 清吾（かしわぎ せいご）委員
お願いします。

○柏木清吾委員 観光委員会の柏木清吾です。

私は若者議会を通じた自分の成長について話したいと思ひます。私は高校1年生の頃から様々なボランティアをしていました。そこでは地域の様々な人に出会いましたが、深く繋がることができずにいました。しかし若者議会に参加してみたら、緊張や不安がありました。他の委員の方々と何回も行った話し合いで深く関係を築くことができ、様々な価値観や考え方などを取り込み、自分の意見をしっかりと持って他人と話せるようになりました。

他にも新城市以外の人々との交流もとても良い経験になりました。ユースカウンスル京都の方々、u p t o y o uの方々など、私たちと同じように地元のまちづくりに参加している方々と知り合えました。若者議会に参加していなかったら絶対になかった交流だと思ひます。

今では、将来学びたいこと、叶えたいことができ、生活がより充実しています。改めて、

若者議会に参加して心から良かったと思います。

以上で発表を終わります。1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
次に長谷 和奏（ながや わかな）委員お願いします。

○長谷和奏委員 交流委員会の長谷和奏です。若者議会で過ごした1年間を振り返ると、楽しかったことやうれしかったことがたくさん思い出されます。その中で、私が成長するきっかけとなった出来事があります。新城の市議会議員の方と政策について意見交換をした時のことです。そのときは、ヤングコネクト事業案の市長答申が終わった時期で、安心から私は少し気が緩んでいました。しかし、そこで議員の方からヤングほのかを若者が本当に手にとって読みたいと思うのか、と芯をつかれた厳しい指摘をいただきました。その時、自分たちが目的を達成する情報誌を作ろうということばかりを考えて、若者に楽しんで読んでもらうという大事なことをおろそかにしていたことに気が付きました。試行錯誤がまだまだ足りていないことを痛感し、ヤングほのかを若者に響く冊子にしなければもう一度気持ちに熱が入った瞬間でした。私はこの経験から、政策は常に受け取る側の立場に立って考えることが大切だということを学びました。これから先、様々な場面で決定を迫られた時も、独りよがりにならず、視野を広く持ち、周りを見て決断できるようにしたいです。

最後に、いつも私たちのサポートをしてくださったメンターや事務局の皆さんに感謝をしたいと思います。議事録をまとめたり、資料の作成など、きっと私たちが毎週話し合う時間の何倍もかけて話し合いがしやすいように準備をしてくださっていたと思います。そのおかげ

で私達も安心して会議に参加することができました。将来私も皆さんのように、人のために頑張ることができる大人になりたいです。

この若者議会の経験を生かして、これからもっと社会に貢献していきたいです。

1年間本当にありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
次に古瀬 有菜（ふるせ ゆうな）委員お願いします。

○古瀬有菜委員 交流委員会の古瀬有菜です。私にとって、この1年は成長と挑戦でした。前に立って物事をやってこなかったことから、若者議会に興味があっても参加することはとても勇気がいることでした。しかし、思っていたよりも同じ学校の子も多く、初めて会ったのにもかかわらず、話し掛けてくれた人もいて、1年間新城市のために頑張ろうと思いました。

活動していく中で、私はまだまだ新城市について知らない魅力がたくさんあることに気づきました。しかし、委員会のメンバーや他の委員会の人たちと話し合っていくうちに、新城市について多くのことを知ることができました。ですが、このことを交流委員会としてどのように若者に伝えていけばいいのかととても考えました。自分だけではなく、委員会のメンバーやメンターさんと協力し、ヤングほのかを若者に見てもらえるように、読みやすくするため、コンテンツの内容や文字の量を少なくすることなど工夫をしました。

この1年を通して、私は新城市について知り、考えることができました。普段生活していたら、あまり考えない近所の人や隣の家の人についても目を向けられるようになりました。そして、失敗を恐れず挑戦し、同じことを繰り返すのではなく、毎日の生活に変化を与えることで、自分自身がより成長していく

と思えるようになりました。

1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。

次に森田 幸輝（もりた こうき）委員お願いします。

○森田幸輝委員 私はこの1年間交流委員会として、日々市民同士が助け合い、安心して住み続けられるまちを目指して頑張ってきました。

人と話すことが苦手であり、最初の委員会で話し合うといったとき、自分が思った意見を出せず、後悔することもありました。その日の振り返りを何度もしていくうちに、次はこうしよう、もっとこうしてみようと考えて、委員会に取り組みました。最初の頃は難しくても、市長答申の際に使った、最後まで諦めないという意思を思い出し、話し合いに積極的に参加してきました。何度も意見を出してみると、自分の思いに共感してくれたり、「もっとこうしてみては？」と委員全体が一つになって動いていったことが自分の自信へと繋がりました。委員全体で、どうすれば目標を達成できるのか等を調べ、話し合った結果、ヤングほのかにたどり着くことができました。ヤングほのかを通して、多くの方に読んでもらい、人と話すきっかけを作ってもらいたい、新城を知ってもらいたい、挑戦のきっかけになって欲しいなど、たくさんの思いをヤングほのかにかけてきました。

若者議会で人と話すことが苦手ではなくなり、協力して何かを作ることの喜びや感動を知ることができました。委員会で作り上げた。ヤングほのかを多くの人に読んでもらい、新城市がより活気溢れる市になることを願っています。

交流委員会として1年間活動させていただき、ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。

次に菅沼 大輝（すがぬま ひろき）委員お願いします。

○菅沼大輝委員 教育・子育て委員会の菅沼大輝です。

私はこれまでに第7期PR委員会、第8期教育・子育て委員会と2期続けて若者議会委員をさせていただきました。

昨年、第7期若者議会では、新型コロナウイルスが猛威を振るい、半数近い委員会、全体会がZ o o mによるオンライン会議、3月に行われる予定だった第8期の事前説明会に至っては中止になってしまっていたと記憶しています。当時の私にとって、オンライン会議にはなじみがなく、とてもやりにくく感じていました。

それに対し、今期は新型コロナウイルスが落ち着きだし、オンライン会議になったことは1度もありませんでした。インターネット上で気軽に参加しやすいオンライン会議と対面で実際に会って話が盛り上がりやすい対面会議の両方を経験でき、双方のメリット、デメリットを知れたのは、これからの私自身にとって大きな価値となりました。

今期若者議会では、新城市以外の若者議会、ユースカウンシルと呼ばれる若者団体と交流する機会が何度かありました。そこでは、新城市若者議会のように、行政が設置しているものもあれば、尼崎市、京都市のユースカウンシルのように、民間主体で設置されているものもありました。これらの設置方法の違いは、予算面に手厚い行政設置型、政策の自由度が高い民間主体型というそれぞれ異なった強みを持っていました。このような若者議会に入っていたからこそ知れた会議の進め方から、若者政策のあり方まで多岐にわたる知識は、私の大きな財産になりました。これからは、この大切な財産を私たちのふるさと、新城にどう生かせるか考え、まちづくりに参画

していきたいです。また、私たちが考えた政策が花を咲かせることには、今よりも少しでも活気づいた新城市になっていることを願っています。

1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に平井 緑空（ひらい りくう）委員お願いします。

○平井緑空委員 教育・子育て委員会の平井緑空です。

私は2年間、若者議会に携わってきました。ですので、その2年間の活動の変化についてお話させていただきます。私が若者議会に携わった最初の1年間は、今の私と比べて消極的だったと今では感じています。コロナの規制があったのも関係していますが、政策を作るときアイデア探しで、ネットを頼りにしたり、自分で考える前にメンターさんに頼ったりということが多かったです。では、今期の1年間の私はどうだったのでしょうか。一言で言えば別人でした。若者のまちサミットという場で、全国にある若者が活動する団体の講演を聞いたり、他の組織ではどのような活動を行っているのか、例を挙げれば、新城市にもある少子高齢化や人口の流出などの問題に対して、どのような対策をしているのかなどを聞いたり、逆に若者が活躍する市にするにはどういった活動をするべきか私なりの意見を述べ、意見交流をするときもありました。そして、こういった経験を生かし、今期の若者議会では自分から意見を発し、より良い政策を作っていくといった活動ができたと感じています。私が1年目と2年目でこんなにも大きく変わったのは、やはり若者議会の影響が大きかったと確信しています。

今日までのたくさんの経験や出会いを大切に、これからもこの若者がまちづくりに参加する社会づくりという決して平たんではな

い道を一步步つ歩み続けていきたいと考えています。

2年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に今泉 翔帆（いまいずみ しほ）委員お願いします。

○今泉翔帆委員 交流委員会の今泉翔帆です。

私はこの1年間で様々なことへの考え方や見方が変わりました。例えば、家から学校への登校時、地域の方々が挨拶をしていると交流していることがわかり、うれしく思うようになりました。また、新城市の自然の多さがすてきだな、綺麗だなと感じるようになりました。

一方で、今年は人口減少や少子高齢化などの様々な新城市の課題についても考える1年になりました。その中の一つである交流の少なさについて、交流委員会として深く考え、対策案を考えていけたことが新城市民としてとても誇りに思っています。

そして私にとって若者議会に参加したことが17年間生きてきた中で一番の挑戦でした。若者議会に入ったことで自分に自信が付き、良き仲間にも出会い、今のように大勢の人の前で発言できる力もつきました。これもすべて緊張をほぐして楽しい雰囲気を作ってくださったメンター職員の皆さん、メンター市民の皆さん、事務局の皆さんのおかげです。また、私の意見を真剣に聞き、受け入れてくれた委員のみんなのおかげです。振り返ると、周りの方の支えがなければ、こんなにうまくはいかなかったし、頑張れなかったと思います。

これからはヤングほのかをもっと広め、この1年で培った経験を生かして頑張ります。

1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。

次に石原 壮（いしはら そう）委員お願いします。

○石原壮委員 観光委員会の石原壮です。

まず私が若者議会に入ったきっかけとして、当時の私は新城市役所の職員になるという夢を持っており、学校の進路の先生から若者議会に入れば市役所の人に覚えてもらえてアピールポイントになると勧められたことで応募し、若者議会に参加しました。今考えたら若者議会をただの新城市役所に入るための手段としか考えておらず、当時の私はとてもいい加減な考えを持っていたように思います。しかし、若者議会で活動していく中で、同じ委員会の仲間たちと会議で話し合いをしていくうちに、まちづくりのことを具体的に考えることができるようになったり、新城市に対する関心も参加前と比べて深まったように感じます。他にも観光委員会の委員長に立候補したり、案を考えて積極的に発言ができるようになるなど、この1年、自分にとって有意義で、とてもいい経験をする事ができてと思っています。

最終的に新城市役所の職員になるという夢をかなえることはできませんでしたが、これからも新城市の一市民として、新城市を支えていきたいと思っています。

1年間ありがとうございました。

以上で終わります。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に伊藤 匡輝（いとう まさき）委員お願いします。

○伊藤匡輝委員 交流委員会の伊藤匡輝です。

若者議会という場で過ごした1年を振り返ると、自分の人生を大きく動かした1年であったと感じます。初めての議会、緊張と不安が大きく、これからの活動をしっかりと行うことができるのか心配でした。しかし、今と

なっては、そんな心配は少しもなく、しっかりと活動を行えたとはっきりということが出来るほどの自信を身につけることができました。

また、自分はコミュニケーション能力が低く、社会に出ると一番必要とされるため、ずっとこのままでいいのかと不安でした。けれど、委員会での活動を行っていく中で、少しずつではありますが、自分のコミュニケーション能力が上がっていくことに気づき、今では近所の方や知らない人と話すことが上手になったと感じることが出来ます。

さらに、今まで新城市に住んでいましたが、委員会等の活動をしていく中で、新城市についてより一層深く知り、今まで気づくことのできなかった新城市の一面に気づくことができました。それだけでなく、より盛り上げるためにはどうすればいいのかといった発想力や、このやり方があったのかといった新たな視点などを身につけることができました。

このように、自分を成長させることができたことや、いろいろな発見をすることができたのは、若者議会という場で活動することができたからだと思います。この経験を今後の生活で大切にしていき、また、これからも新城市を盛り上げ、守っていける若者であり続けたいと思います。

1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に藤井 成俊（ふじい なるとし）委員お願いします。

○藤井成俊委員 観光委員会の藤井成俊です。

僕は数字の仕組みについての好奇心から、若者議会に応募し、若者委員になってから、事業報告までの全体会や委員会での話し合いや意見交換を繰り返していくことで、多人数他人の意見を受け入れ、自分の意見を変えることができるようになりました。

また観光委員として、どのような政策を進めていけば、新城市に足を運んでくれる人が増えるのかを考えてきました。その上で、新城について多くのことを調べ、今まであまり知らなかった地区についての知識を深めることができました。そうしたことで、もともと好きであった新城市がより好きになりました。

この1年間、若者議会という場所で多くの貴重な体験をさせていただきました。1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に小野田 響（おのだ ひびき）委員お願いします。

○小野田響委員 観光委員会の小野田響です。
この1年を振り返って、僕は学んだことが多くありました。その中でも2つ、特に自分に影響を与えたことは、みんなが思う新城の良さを知ることと聞く大切さです。

1つ目のみんなが思う新城の良さについて知るということで、この若者議会に入るにあたって、1つ僕は目標にしていたことがあります。それはみんなが思う新城のよさを知ろうということです。自分の思う新城の良いところと、他の委員が思う新城の良いところを照らし合わせて、より深く新城について知ろうということを思いました。他の委員と話しているうちに、自分の知らない良さ、知らない観光地などが知りました。しかし、反対に新城市の問題点なども知ることができました。結果的に、より深くこの新城について知れたのでよかったですと思います。そして、僕はこの若者議会に入り、より進んで新城について知ろうと思い、個人で新城周り、良い点や問題点などを探りました。そして僕は、自分でも携われるささいな問題点を解決したいと思い、新城市の問題点の一つとして、僕が特に感じたことである「新城から無駄な道をなくしたい」ということを思いました。先ほども言い

ました問題点の1つに、土砂崩れなどで行き止まりの道が、この新城のまちにはよくあると身をもって感じました。こういったささいな問題点の解決に今後自分も携われたら良いなと思いました。

そして2つ目。聞く大切について学びました。僕は人と話すときに、つい自分の話したいことを優先的に話してしまい、相手の言いたいことなどがうまく聞き取れなくて、会話がスムーズに進まないことが多々ありました。ですが、この若者議会の場で皆さんとの話を通して、日常的に話すという意識が付き、落ち着いて相手の意見などを聞けるようになり、日常会話でもスムーズに話が進むようになりました。これらの変化を振り返っても、やっぱりこういった経験はとても良いなと思いました。

最後に1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。
次に内田 カウア（うちだ かうあ）委員お願いします。

○内田カウア委員 交流委員の内田カウアです。よろしくをお願いします。

僕は市役所の知り合いに勧められて若者議会に入りましたが、この1年間で多くの学びを得ることができたと思います。よく、若者議会に入った当時は新城について知っていたことが少なく、ただ自然が多いという印象しかありませんでした。しかし、若者議会に入り、新城について考える機会を設けてもらい、新城の魅力や、逆にその問題点などを見つめ直す、考え直すことができました。新城市は、ただ自然が多いだけではなく、観光地やイベントも、自分が知らないだけでかなり多いことを知ることができました。また、新城市の問題点として少子高齢化など、自分が目を向けていなかったことも知ることができました。それが自分の成長できた1つの点

だと思えます。

また、自分は人とコミュニケーションをとることが苦手で、あまり自分の意見などを話せるような人ではありませんでしたが、若者議会に入って、少しその性格を改善することができました。最初の会議では意見を言うことができず、ただ傍聴することしかできませんでしたが、会議の回数を重ねるにあたって少しずつ意見を言えるようになりました。これが若者議会に入って最も良かったことだと自分は考えています。

若者議会は自分に多くの成長をもたらしてくれて、とても感謝して、入ったことをとても良かったと思っています。

この1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
次に山口 翔大（やまぐち しょうた）市外委員をお願いします。

○山口翔大委員 市外委員を務めさせていただいた交流委員の山口翔大です。

私は名古屋に住んでおり、新城のことは皆さんほどはよく知りませんでした。ただ、新城の皆さんが優しく、時には名古屋のことをいじりながら、私を受け入れてくださり、新城のことを教えていただきました。ありがとうございました。

私は大学で行政学や政策学を学んでいますが、それらは具体的な現実の改善に目的があると思っています。その上で、若者議会では机の上の問題ではない、現実の問題をいかに解決するかということの難しさと面白さを体感させていただきました。問題解決を考える上では難しくとらえがちではありますが、その中でどうしたら面白くなるかという視点で考えることが大切だと感じました。ステレオタイプ的な若者らしさである必要はないと思いますが、政策に遊び心を込められるのは、若者議会だからこそできることであり、求め

られている部分だと思いました。

また、若者議会では高校生の積極性に驚かされ、私も刺激を受けました。そして、市のことを自分事として考える若者がこんなにもいることは、新城市の強みになっているなど実感することができました。

最後に、政策は計画するだけでなく、実行して初めて意味をなすものだと思っています。今回、ここで一区切りではありますが、実行に向けて、これからもできる限り新城に携わり続けていきたいと考えています。

1年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。
最後に梅田 昌菜（うめだ しょうま）副議長をお願いします。

○梅田昌菜副議長 教育・子育て委員会委員の梅田昌菜です。

私は、第7期と引き続き第8期、今期の2年間通年で務めさせていただきました。第7期の反省の時に申し上げたのが、私は意見を言うときに詰まってしまうたりだとか、人の前で意見を言う、発表するっていうことがとても苦手でそれが克服できなかったと申しました。ですが今期第8期を通して、私はすごく自分の意見をスムーズに他の人たちに共有することができるようになったな、成長したなと感じました。

私は、新城市から引っ越してしまって今豊川に住んでいるのですけれど、やはり新城に向ける熱意だったり、好きっていう気持ちはいまだに変わらないので、これからもボランティアだったり、そういう異なった点から新城に関わっていけて、新城に貢献できるように頑張りたいと思っています。

1年間ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。

4. 市議会議長挨拶

○瀬野和奏議長 続いて、お忙しい中ご出席いただきました、長田市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 ようこそ議場へ。

君たちと会うのがこれで最後だと思うと、少し残念な気持ちです。初めに会ったときに、「君たちは、まちづくりのライバルだ」と言ったことを覚えていてくれますか。まちを思う気持ちに若いとか、年だとか、その思いの情熱は変わることはありません。ただ1点、我々の世代と君たちの世代で違うのが、以前申し上げた通り、時間が君たちにはある。君たちは知識も能力もまだまだ未熟なのかもしれない。ただし、それを補うだけの時間がある。それを若者議会でできっと学んでくれたことだと確信しています。事業についてのことを一つ一つ述べるつもりはありません。ただ、君たちが本日言った振り返りの言葉、それを毎日じゃなくてもいい。1か月に1回じゃなくてもいい。1年にいっぺんでもいい。今日の振り返りの言葉を時々見返すことを約束してほしいと議長としては思っております。

なお、令和5年度から新城有教館高校の写真部に議会の広報紙の表紙を頼むことになりました。この場にも新城有教館高校の生徒さんが見えると思います。ぜひ、写真部の皆さんに若者のほのかに負けないように、議会、新城が多くの市民の皆様にご覧いただけるような写真を届けてくださいとお伝えしてほしいなと思っております。

かのマザーテレサは、愛の反対は何かと問われたときに、「愛の反対は憎しみではありません。無関心だ」と述べたそうです。君たちは振り返りにおいて、このまちが好きだ、そしてこのまちを良くしたいと思う気持ちを伝えてくれました。これからもその気持ちを忘れず、次の若者議会、そして若者の世代の

皆さんに繋いでくれると心から嬉しいと思っています。

君たちの青春時代は、マスク姿の写真ばかりだったかもしれません。ただし、それがきつと、笑って話せるときがきつと来ると議長は信じています。

改めて、君たちの無限の可能性にエールを送って、本日の議長の挨拶とします。

1年間ありがとう。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。

4. 市長あいさつ

○瀬野和奏議長 最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長 新城市長の下江です。

昨年の5月に第1回若者議会で皆さんの所信表明を、この場所で、議場で聞かせていただきましたが、本日、第15回ということで第8期の若者議会としては最後の会議となりました。この間、昨年でありますけれども11月には、皆さんから気持ちのこもった、思いの詰まった事業の答申をいただき、本日はその後の経過等を含め、改めて検討を重ねてこられた事業についてしっかりと聞かせていただくことができました。すでに、今週3月の市議会で若者議会の提案した予算はすべて認められ、議決をいただきましたので、令和5年度、この4月以降に実行していく流れとなります。市では皆さんの思いをしっかりと引き継ぎ、責任を持って実施していきたいと思っております。

ただいま、皆さんから事業報告と1年間の振り返りを聞かせていただきました。交流委員会の事業、若者の交流の促進を目的として、交流の意識を若者の皆さんが高めていただくことを期待いたしますし、また、このヤングほのかの編集をしていく中におきまして、若者がよりこの新城市の良さ、魅力に改めて気

づくことがあると思います。それも大きな価値、大きなこの事業の意味のあるところであるというふうに思います。この事業がぜひ、世代を超えた交流につなげていけるように取り組んでいきたいというふうに思います。新城市は、皆さんもこの1年間調べられたと思います。少子高齢化、そして人口減少が進んでおりまして、地域によっては高齢者だけの独居の世帯、また、高齢者のご夫婦の世帯も増えつつあります。そして過疎化が進む地域もあります。支え合いをそれぞれの地域で育んでいく人づくりと、みんなで助け合う地域づくりをさらに進めていかなければなりません。そのためにも、何よりも助け合いも支え合いも交流から始まりますので、この事業が世代を超えた交流に繋がるように、しっかりと進めていきたいというふうに感じました。

続いて教育・子育て委員会の事業でございます。若者が、若い皆さんがこの新城市で暮らし、家庭を持ち、安心して出産をして子育てをしていくことができるように、このお出かけ講座、また、プレコンセプションケアの方法で命の大切さを学ぶ事業、また、正しい性の知識を学ぶ、そして妊娠、出産等、皆さんが正しい知識を持っていただくこと、そのことは本当に若者にとって必要かつ不可欠な事業であるというふうに思いますし、何よりも性のことは、家庭でも、そして皆さん同士でも、学校でも普通に話せるようになることが必要であるというふうに思っております。どうか若者自身が夢と希望を持てるよう、皆さんの幸せのために、この事業もしっかりと進めていきたいというふうに考えました。

そして観光委員会の事業でございます。Y o u T u b e 動画広告を活用した市のPRの発信でありますけれども、新城市も様々な観光はもちろんですが、市の魅力を発信する情報発信、大変市としても重要な取り組みでありますけれども、皆様の若者の視点でこうしたご提案をいただいたことが本当に大

きな力になるというふうに期待をしております。今年は大河ドラマで、この地域が取り上げられることが多くありますし、PRのチャンスの年でありますので、この手法による皆様方の提案していただきましたPRがしっかりと結果が出ることを期待しておりますし、そうなるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

さて皆さんは、この1年間、これまで振り返りでお話をいただきましたけれども、大変貴重な様々な経験をされました。また、改めて新城市の魅力を発見することができたという方もいらっしゃいました。今期の若者議会にも、様々な方が参加していただきましたが、今後、皆さんの中には、大学に進学をされたり、就職をされたりして、市外あるいは県外に行かれる方もいらっしゃるかと思います。若者議会に参加したことをきっかけに、大学等を卒業してから、また新城市に戻ってくるということになれば、やはりそれが私にとっても1番うれしいことでもありますけれども、もし、市外に住むことになったとしても、時々新城市に遊びに帰ってきていただいたり、知り合いや友人に若者議会での経験や、若者議会をきっかけに再発見した新城市の魅力を自慢していただけたらそれもまた嬉しいことでもあります。

若者議会はまちづくりのほんの一部にすぎません。もっと言えば市役所が行っていることも一部にすぎません。各行政区で区長を務めてくださっている方々、また、地域協議会で各地域のことについて考えてくださっている方々、消防団員として活動して下さっている方々、挙げたらきりがありませんが、新城市ではこうした多くの様々な方によってまちづくりが行われております。市民の方お1人お1人がまちづくりの一員なのです。新城市に遊びに帰ってきたり、お友達に新城の新城市の魅力を自慢することも、これもまちづくりの一つであります。どんな形でもいいの

で、若者議会を卒業してからしてからも新城市のまちづくりに関わっていただけるよう、お願いしたいと思います。皆さんと一緒に新城市を盛り上げていきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、本日、この若者議会、第15回の会議、最後の日を迎えるまで大変多くの方の支えが皆さんにはあったと思います。メンターの方々、そして市外委員の皆さん、また皆様を温かく見守ってくださりご家族、そして学校の先生、会社の上司、仲間たちに感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

皆さん本当に1年間お疲れ様でした。この1年間、大きく成長した皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。

今年は新型コロナウイルスに左右されることなく、全委員会を対面で行うことができました。この約1年間、どの委員会も嬉しいことや、時にはつまずいて内容が白紙に戻ったりすることもあったと思いますが、納得のいく政策ができたのではないのでしょうか。

最後に私自身の振り返りをお話しさせていただきます。

私は若者議会に参加したこの2年間で大きく成長したと感じています。1年目では、コミュニケーションスキルがなく、自分の意見をなかなか言えない自分を変えることができ、2年目では、それを委員会の場や議長として発揮することができました。また、他の地域の若者議会の方々との交流会や、ユースカウンスルフォーラムなどの参加に声をかけていただくことも多数あり、いろいろな若者の思いやこれからの若者のあり方を知ることができました。

そして、この2年間を通して自分の夢もでき、尊敬する人も見つけることができました。それは若者議会のおかげだと思っています。

話は変わりますが、来年度にはこども家庭庁の設置、また、こども基本法が施行されます。この法律では、すべての子どもが自分の意見を表明できる機会が確保されています。その中で、私たちも若者総合政策に基づき、政策検討するだけでなく、自分たちには何ができるかという視点でも、答申後の会議で話し合ってきました。こういった話し合いを通し、自分たちでできることに気づくことができ、若者の活躍できるまちにも重要な要素だと感じました。今後は、若者チャレンジ補助金などを活用し、若者みずからが行動できるような仕組みを若者議会でも取り入れ、若者議会が出たアイデアなどは、若者チャレンジ補助金の活用例として生かしていただきたいと思っています。

最後になりますが、私がこの1年間走り抜けたのは、委員の皆さん、メンターの皆さん、事務局の方々、市議会の皆さん、そして家族だと思っています。忘れられない1年をありがとうございました。

これもちまして、第15回新城市若者議会を閉会させていただきます。

閉 会 午後8時30分